

あやとりうた



くぼひでぎ
絵・はんだみちこ

妹がほしいと思っていた。

友だちのほとんどは一人っ子だけど、そうじゃない子の家に遊びに行くたび、話を聞くたびに、私はうらやましく思っていた。

「めんどくさいよ、うるさいし」

そうは言っても、ひとりきりでおやつを食べるより、けんかになっても誰かといっしょのほうが、きっとジュースもおいしいはずだ、と思う。

だけど兄さんや姉さんはいらないんだ。私は人に指図されたり、いばられたりするの好きじゃない。命令するほうが楽しい。

けれど、しょうこちゃん、新しく我が家に来てきた妹に、命令するなんてできっこない。

だってしょうこちゃんは、私よりずっと長く生きてるんだもの。

しょうこちゃんは、ほんとうは、私のおばあちゃん。

いま七十六歳。

細い白髪をおかっぱに、顔じゅうしわだらけだ。去年は私のおばあちゃんだった人。あ、いまでもおばあちゃんか。でもそれは時々のもので、私と遊ぶときはいつでも妹のしょうこちゃんだ。